

『トマス・ヴェンツロヴァ自選詩集』出版記念講演会

越境する言葉、刻まれる記憶

バルトの詩人トマス・ヴェンツロヴァの世界



トマス・ヴェンツロヴァ

櫻井映子 訳

トマス・ヴェンツロヴァ
自選詩集

東京外国語大学出版会

Tomas Venclova *Poezijos rinktinė*

講演者：櫻井映子

名古屋大学大学院文学研究科修了（文学博士）。専門はリトアニア語学・リトアニア文学、バルト・スラヴ語学。リトアニア国家勲章を受章。主な著書に『ニューエクスプレスプラス リトアニア語』（白水社）、『リトアニアを知るための60章』（明石書店）、訳書に『ロボットと蛾』（green seed books）などがある。

2026年

7月28日（火）

12:40-14:10

研究講義棟305教室

入場無料・一般公開

（授業内講演として開催しますが、一般の聴講も歓迎します）

主催：東京外国語大学総合文化研究所

トマス・ヴェンツロヴァ（1937-）はリトアニアの詩人。ソ連時代に反体制活動により国外に追放され、1977年に米国へ亡命。渡米後もリトアニア語で詩作を続け、バルト諸国および東欧を代表する詩人として国際的な評価を確立し、翻訳家・評論家・文学研究者としても活躍。

今年7月、ヴェンツロヴァ本人の自選による73篇の詩を収めた初邦訳詩集を東京外国語大学出版会から刊行することを記念して、日本におけるリトアニア研究の第一人者であり、本書の翻訳・出版に尽力された櫻井映子氏にお話を伺います。